

千葉ゼミのチャレンジ

「社会人基礎力育成グランプリ大会2012」で奨励賞

外国語学部千葉ゼミで「ツリーズム&ホスピタリティ」を学ぶ学生たちが、昨年11月21日に経済産業省で開かれた「社会人基礎力育成グランプリ大会2012」に出場し、「奨励賞」を受賞しました。

同大会では、「大学での授業・活動を通して、学生の社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）がどれだけ成長したか」を競います。全国6カ所で行われる予選大会に於いて、文京チームは関東地区大会に臨み、初出場での入賞となりました。

発表は、ゼミで学んでいる「江戸しぐさ」を広めるために何に取組み、どのように成長



発表者の岡本さん（左）と西村さん



大会に向けて支え合った千葉ゼミメンバー（後列左から）大類千秋、坂戸優里、千葉隆一教授、大川原円香、川島実夏（中列左から）西村理沙、土屋友美、古賀めぐみ（前列左から）岡本珠実、浜口朋美、木村早苗、松下舞子、寺本彩乃（敬称略）

現在、就活の真っただ中。「江戸しぐさ」を学んだ千葉ゼミ生に、面接官の方々はぜひ注目を！

したか」がテーマ。「江戸しぐさ」とは、江戸時代の商家に伝わる倫理観・道徳観などに基づく生活の知恵のこと。

例えば「傘傾げ」という「しぐさ」があり、これは、雨の日に人とすれ違う時に、傘を反対側に避けるなど、相手を思いやる行為を指します。これらを発表するにあたり、文京学院大学女子中学校で生徒の前に立ち、授業を行いました。中学生により解り易く話すために、「江戸しぐさ」を現代的にアレンジしたDVDを作製して見せたところ、身近に溢れていると気付いた「これから実践したい」という感想が寄せられました。

その取組みをパワーポイントにまとめることに苦心した

り、限られた時間内のプレゼンで、「広める」という形に現れないものをいかに伝えるか」の方法が判らず、方向性を見失ったこともありました。また、メンバー内での作業であったため、他の意見を聞くことも必要と、ゼミの先輩や職員を前に発表の練習も行いました。それにより、発表態度・表情・目線などの指摘をいただき、改善に繋がりました。

発表者は岡本珠実さん（外国語学部3年）と西村理沙さん（同）。何度も練習を積んだことで、当日は緊張しながらも、自信を持って発表することができました。二人は「江戸しぐさを広めたいという思いで取り組んだ発表でしたが、多くの来場者に知っていただけて本当に良かった」と充実感溢れる笑顔。会場では、パワーポイント操作の松下舞子さん（外国語学部3年）

を加えて3人での発表でしたが、近くで苦勞を共にした仲間が写真撮影などを担当してくれて、「みんなと一緒にやっている！」と心強く感じました。この経験を通して得た最大の収穫は「チーム力」でした。

西村さんは、自動車免許取得のための合宿で岩手に行き、東日本大震災後の人々の思いやりや優しさを目の当たりにしました。「江戸しぐさは、今でも生きて引き継がれていることを実感して感動。日本人としての誇りを感じた」と話しました。岡本さんは「このゼミで関わった江戸しぐさをより深く研究できる良いチャンス。千葉ゼミ希望者が沢山いる中で、自分が入ることが出来たので、2年間の学びの形を残したかった」。これらの思いが大会出場に繋がりました。

千葉隆一教授は「毎日、早朝から夜遅くまで、授業の合間をぬって努力したようです。学生が達成感を感じてくれたことで、大会出場の大きな意義がありました」と成果を喜びました。